

教師の役割

教師の役割 その1

単元カリキュラムの開発

総合的な学習の時間の授業は、「関わり」が大切である。

人と関わらせる

友達と
ゲストと
異学年と
保護者と
立場の違う人と

既習の学習と関わらせる

他教科と
これまでの総合と
友達の学習と

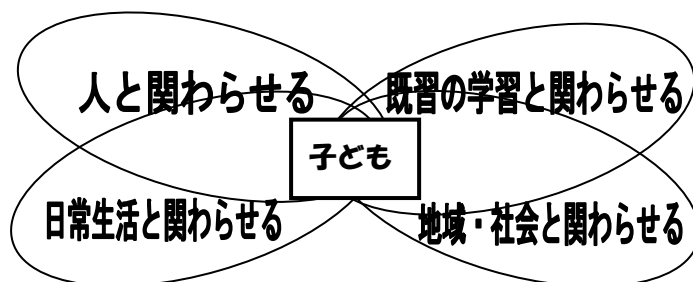
日常生活と関わらせる

家での生活と
体験と

地域・社会と関わらせる

大人社会と
学校の地域と
社会のルールと

総合的な学習の時間における教師の役割は大きい。「単元カリキュラム開発」と「児童・生徒の評価」である。自ら探究する子どもを育成するために、教師は次のような点を意識して、授業をデザインすることが大切である。



- ① 子どもの発想、興味・関心を生かしていく。
 - ・教師こそが意識を変え、発想の転換を図る。児童の柔軟な発想を生み出し、学習意欲が高まる総合的な学習の時間を展開させるには、教師自らが柔軟な発想に転換し、子どもに負けないくらいの課題例・活動例をもたなければならない。
 - ・具体的な体験活動を行う。具体的な体験や事物とのかかわりをよりどころとし、感じたり考えたりしながら様々な情報を獲得していく。ここで得られる情報には、事実在即した客観的な情報もあれば、児童生徒が身体を通して感じる主観的な情報もある。
- ② 試行錯誤の許容範囲を広げる。
 - ・課題作り（課題設定）には時間をかける。課題が浮かばない子には、対話により、子どもの関心から教師が広げ導いていく。
 - ・各教科でできなかった「試行錯誤」ができるだけの時間をたっぷり与える。
- ③ 子どもの知らない世界を体験させる。
 - ・「本物にふれさせ、本物から学ぶ」というスタイルを授業のベースとする。その中で、課題設定場面等で「驚き体験」を仕組むと、より子ども達の関心・意欲が高まる。
- ④ 自分だけのこだわりを大切にさせる。
 - ・活動に「価値がある価値がない」は存在しない。価値の有無は、教師の支援やアドバイスでいくらでも変わってくる。その子の活動を尊重する。そうすることで、こだわりと自信を持つてくるはずである。
- ⑤ 「交流」「表現」活動を豊かにする。
 - ・「人にふれ、肌で感じる総合」が大切である。子ども達は、「体験」「交流」することで、知識を得、また自分の考えをもつことができる。体験が表現力を豊かにする。
 - ・発表会は、複数回行い、表現技能を向上させる。
- ⑥ 「共通」と「個別」のバランスをとる。
 - ・「共に学ぶ」よさを実感させ、共に高めていく機会を設定する。
 - ・常に他の友達全員のやっていることがわかるような場を作る。

中間発表会 全員の活動が見える情報掲示

ノートを見合える場を作る。 相互評価の重視

- ・具体的には児童生徒が行ってきた学習活動を数値化したデータや児童生徒の感想や意見などを言語化された情報を児童の教材として用意し、授業の中で共有化し展開していくことが効果的である。



3年環境の授業実践より・・・

- 単元計画に中間報告会を位置づけ、教師側が示した評価観点をもとに活動報告内容への相互評価を行っている。児童同士の関わりを深め、協同的な活動となっている。
- 児童が書いた相互評価表を全体に提示し、授業の中で教材化している。言語活動を充実させる手立てである。

教師の役割 その2

児童・生徒の
評価

方法知と内容知に分けて、評価する。

評価の方法も評価の視点も違う。

総合的な学習の特徴として、「機能的学力の習得」と「生き方を見つめる」という2つの側面をもっている。子供たちの学力を適切に評価し、支援していくためには、この両面に分けて考える必要がある。具体的に考えると次のような内容が基本となる。

方法知 (学び方) …どんな学習内容であっても、共通して育てたい学力

4年間同一の観点や視点(評価規準)を設定し、観点項目に即して客観的・系統的に評価(課題設定力、計画力、情報活用力、人間関係力、自己表現力、自己評価力、実践力)

- ・児童の様子観察による評価と合わせて、4年間同一の観点や視点を設定し、観点項目に即して客観的・系統的に評価する。学び方(方法知)に関する力を評価していくには、どんな子供に4年間で育てるのが、明確になっていることが大前提である。

内容知 …学習内容に依存して身に付く学力

その児童のスタート地点を基準と考え、伸びたところ、変容したところを中心に評価していく。(内容に関する関心・意欲・態度、知識・理解、思考力)

- ・「内容知」については子供のよさを大いに認めてあげたい。評価規準を設けず、その子のスタート地点を基準と考え、伸びたところ、変容したところを、「心、態度、考え方」などを中心に評価していく。評価方法は、観察・面接・振り返り作文・ワークシート等が、児童の内面が表れていてよい。振り返り作文の分析や面接等により児童の良いところを評価する。



方法知の評価・・・

○中学年・高学年のそれぞれで身に付けさせたい資質・能力及び態度を明確にし、その評価規準をもとに個々の評価を行う。

(この場合は表現力の評価)



内容知の評価・・・

○振り返り作文をもとに、児童の意欲や思考力の伸びを評価する。